



子犬の社会勉強とは？



子犬は生後3週間～3、4ヶ月齢が社会化期と言われています。この時期は好奇心が強く、いろいろな環境や物事に慣れやすい期間になります。人でも子供の時に集団行動などで、人との接し方を学んでいきます。子犬も一緒にこの時期に様々な環境に慣らしていくことを社会化といいます。

社会化はどうして大切か？

好奇心が旺盛な時期にいろいろなこと(見る・聞く・触れる)に慣らしておく、成犬になってからストレスなく生活を送ることができます。ストレスは下痢や嘔吐・膀胱炎など様々な病気を引き起こす原因にもなるので、健康で長生きするためにも子犬の時期に社会化させることはとても大切です。

「慣らしておけばよかった」ランキング

第1位 外の環境

散歩に行けない、散歩へ行っても物や犬に吠えることがある
⇒家族以外の人・動物・車・アスファルトの感覚などに子犬の時期に慣らしていなかった

第2位 キャリー・ケージ

キャリーにに入れて病院に行く車の中でずっと鳴いていたり、預かり施設に預けている間ずっと吠えていて食事もとらないことがあった⇒普段は放し飼い状態で、寝るときはケージなどに入れずいつも一緒に寝てる

第3位 雷・花火

雷が鳴ったら怖くてずっと震えていたり、音にびっくりして室外へ飛び出して逃げってしまった
⇒普段から動画などで音を聞かせて慣らしていなかった

第4位 お手入れ

ブラッシングを嫌がって毛玉ができてしまう、爪きりや耳掃除する時に嫌がって噛み付いてくる
⇒普段から道具に慣らしていなかった・あまり体に触る練習をしていなかった

上記以外にも病院へ行くことや、診察台の上に乗ること、触られることを嫌がるわんちゃんがあります。嫌いな事をする時だけに病院へ行くのではなく、病院の雰囲気や他のわんちゃんに慣れる為にも普段から病院へ来るようにしてみましょう。



上手な社会化のさせ方とは？

子犬は人間の子供と一緒に、なかなか我慢することは難しいです。また人と違って言葉で諭すことはできません。では、どうやって物事に慣らし社会化させていけば良いのでしょうか。



慣らし方のポイント

子犬に気づかれないように慣らします（例えば、遠くから他の犬をみせたり・掃除機を掛けるなど）

※**その際には子犬が大好きなものを与えます**（おもちゃ・食べ物など）



遊び続けていたり、食べ続けられているようなら成功です



徐々に距離を縮めていきましょう（それでも遊び続けていますか？食べていますか？）



遊ぶのをやめたり、食べるのをやめてしまったら距離を広げてまたスタートです
やめてしまうということはそれが本人にとって嫌なことになります



病院からのおすすめ

仔犬の本-第2版-

社会化、トイレトレーニング、甘咬み、おもちゃの選択の仕方などしつけについて分かりやすい写真つきで紹介してる本です。



ペットと暮らす獣医師からのアドバイス本 TeamHOPE

わんちゃん、ねこちゃんを飼育する前のことから高齢になってからの事をまとめてあります。1つ1つの項目がエッセイ調になっていて読みやすくなっています。購入したオーナー様からは目からうろこな事ばかりと好評です。



ふれあい教室（子犬3-4ヶ月齢対象）

他のわんちゃんと実際にふれあって社会化を学んでいきます。他にもお手入れ方法、しつけで悩んでいる事や今後の生活のお話、号令などを飼い主様と子犬が実践して学ぶ教室です。

※予約制になるのでご希望あればスタッフに声掛けて下さい。



社会化について軽くお話してきましたが、「もっと詳しく知りたい」「なかなか慣れさせるのが難しい」などお困りなことがあればいつでも声をかけてください。